

〈報告〉

「やさしい日本語で読む日本文学」
リライト・プロジェクトの報告

—学生間の協働と主体的なことばの選択から得られたもの—

澤邊裕子・高橋なつ・熊谷未来・中野沙耶・安倍菜々香・鈴木茅優

1. やさしい日本語とは

「やさしい日本語」が生まれるきっかけとなったのは、1995年の阪神・淡路大震災である。当時日本語で避難情報が伝えられることが多い中、日本語も英語も十分に理解できない外国人が必要な情報を入手できず、被害を受けることとなった。日本に住む外国人が多様であることが明らかになり、緊急時でも必要な情報を素早く伝えられるよう「やさしい日本語」が誕生した。災害を機に用いられるようになったものだが、現在ではウェブニュースや公文書でも見られ、外国人だけでなく日本人にとってもわかりやすいものとして活用されている。

このように「やさしい日本語」は現在、多言語対応と同等の役割を果たせるものとして注目されている。庵（2021）は、「やさしい日本語」についてマイノリティのためのものとマジョリティのためのものとして大別されるとしている。マイノリティのための「やさしい日本語」は、外国人の居場所作りのため、外国にルーツを持つ子供やろう児が第二言語として学習する際の支援のためとしての役割があり、マジョリティのための「やさしい日本語」は、自らの考えを相手に伝える能力を高める、専門家から非専門家への情報提供などの点において重要な意味を持つとされる。本研究で扱う「やさしい日本語」は前者、すなわち日本語を学んでいる学習者の支援としての役割を担っている。

2. やさしい日本語で書かれた日本語学習者向け読み物素材

先述したように「やさしい日本語」は外国人を対象にわかりやすい日本語での情報提供という目的の下、普及してきたものであるが、「やさしい日本語」という表現が生まれる前から、「日本語学習者に向けてわかりやすく

調整した日本語」というものは当然存在していた。そうした日本語を最も使いこなせる職業といえば日本語教師である。実際に、NHKではやさしい日本語で書いたニュースが「NEWS WEB EASY」というWEBサイトとして公開されているが、もともとのニュースを日本語能力試験N3程度の「やさしい日本語」にリライトするのはNHKの記者と日本語教師が協働で行っている。「やさしい日本語」を熟知し、日本語学習者のレベルに応じた日本語の使用ができると期待されてのことと推察する¹。

このように、日本語教育と「やさしい日本語」の親和性は非常に高い。日本語教育において、「やさしい日本語」は日本語学習者の日本語運用力が着実にステップアップしていくことを補助する役割を担うものとして活用されてきたものだが、ここからは「読む」という側面に焦点を当てて学習用リソースとして活用される「やさしい日本語」について取り上げていきたい。

日本語学習者向けに日本語の難易度を調整したやさしい日本語による読み物のリソースは、さまざまなものが市販されたり無料公開されたりしており、日本語学習者や日本語教師が活用できるようになっている。日本語学習者が楽しく読める「多読」用のリソースとして、ラインナップを豊富にすることを目指し、さまざまな団体や個人が作成している。その例として、NPO多言語多読が監修しているレベル別日本語多読ライブラリー「日本語よむよむ文庫」（アスク出版）や「日本語多読ボックス」シリーズ（大修館書店）、出版社アルクが編集している「どんどん読める！日本語ショートシリーズ」、仙台国際日本語学校が監修する「にほんごで よむ」シリーズなどがある。また、近年はオンライン上で、無料で読める多読用リソースを集めたサイトも増えてきている。NPO多言語多読のサイト「にほんごたどく」にある「無料の読み物」のほか、「たどくのひろば」、「日本語多読道場」などのWEBサイトがその例として挙げられる。日本語入門レベルの学習者から中級程度の学習者を対象に読み物がほぼオリジナルで作成されていて、読み物のジャンルも幅広い。ジャンルの幅広さは、多読用の素材が日本語学習者にとって「楽しく、気軽に読める」ものであることが重要であることにも

¹ 宮城県仙台市に本社を置く「河北新報社」による新聞「河北新報」でも2021年12月から「(みやぎ発) やさしいにほんごニュース」WEBサイトが公開されている。河北新報の「やさしい日本語」ニュースも「経験豊富な日本語教師と編集局の記者が協力して記事を書いています」との説明がWEBサイトに掲載されており、監修協力は宮城県国際化協会地域日本語教育アドバイザーであることが明記されている。

関係していると考え。このような背景の中、「日本文学」をやさしくリライトした読み物は、市販されているものが複数あるものの、無料の素材はそれほど多いとは言えない。先述のNPO多言語多読のサイトにある「無料の読み物」87作品として挙げられている中で、日本文学作品にジャンル分けされると考えられるリライト作品は初中級レベルの「手ぶくろを買いに」(新美南吉)一作品だけである(2022年3月26日現在)。その理由は、幅広いジャンルを扱うことを重視することもあるだろうが、著作権の問題や日本文学作品をやさしい日本語でリライトすることの難しさも少なからずあるのではないかと推察する。

しかしながら日本文学作品のやさしい日本語へのリライトは、このような多読用のリソースのラインナップ充実だけでなく、国語教育を受けている外国につながるのある児童生徒²や、海外で日本文学作品に触れたいと考えている日本語学習者にも広く活用される可能性が高いと考える³。そこで、本学科の専門領域である「日本文学」を題材に、やさしい日本語にリライトし、無料で読めるリソースとして国内外の日本語学習者に提供することを目指したプロジェクトを実施することとした。本稿では、リライト前とリライト後の文章の語彙に関する分析結果や参加学生に対するアンケート結果をデータとしながら、プロジェクトの成果についてまとめていきたい。

3. 「やさしい日本語で読む日本文学」リライト・プロジェクトの実践内容

プロジェクトは2021年5月に本学日文学科の全学年の学生対象に参加が呼びかけられ、1年生2名、2年生3名、3年生2名、4年生2名の全9名の有志のメンバーにより活動が開始された。オンラインで連絡や意見交換を行うため、Microsoft Teamsでプロジェクト名のチームを作り、活動のプラットフォームとした。オンライン上で自己紹介を行い、年度内のスケジュールについても確認をした。時系列に活動の流れを述べると以下の通りとなる。

² 外国人児童生徒に対する学習支援の目的で、様々な教科の「リライト教材」(光元・岡村2006)が作成されている。中島・大塚(2018:42)は「『やさしい日本語』とJSL児童生徒に対する日本語指導の特殊性を踏まえると、リライト教材は容易な『日常言語』を使って教科の内容を理解するための教材」であり、日本語教育教材としても使えるものでなければならぬとしている。

³ 松下(2017:3)も多文化共生のための行政サービスや住民の助け合いとしての「やさしい日本語」のほか、文学、エッセイなどより幅広いジャンルでリライトテキストがあることが、より豊かな日本語空間を広げることにつながるとしている。

- (1) 7月12日：第1回ワークショップ（オンライン）
- (2) 9月23日：第2回ワークショップ（オンライン）
- (3) 9月24日：全体ミーティング（オンライン）リライトする日本文学作品の検討
- (4) 10月13日：全体ミーティング（対面）リライト第1校
- (5) 11月17日：全体ミーティング（対面）リライト第2校
- (6) 12月23日：全体ミーティング（対面）リライト第3校 挿絵の確認
- (7) 1月前半：最終稿の提出と印刷所への依頼、校正作業
- (8) 1月末：冊子の製本納品

2021年7月と9月にはNPO多言語多読の理事長、栗野真紀子氏を講師に招き、NPO多言語多読が作成したレベル別の語彙・文型表に基づいたリライトのワークショップをオンラインで開催した。ワークショップでは、やさしい日本語にリライトする際の注意点、工夫についてレクチャーがあり、グループで短い作品をもとにリライトする演習を行った。栗野氏より、多読用の読み物を作成する際の注意点として、「語彙と文法をコントロールする」「辞書を使わなくても良いように、絵でわかってもらう／漢字は総ルビにする」、「全部わからなくても、楽しく読み続けられればいいから、読解問題を入れない／訳は入れない」ことが示された。また、特に「書き出しは文を短く。話の設定が無理なく頭に入るように」することや、「文と文のつながりを明確に。主語の省略はしすぎない。会話は誰が話しているのかわかるように」すること、「簡約の場合、わかりやすくするために文を前後で入れ替えたり、大幅にカットしたりしてもよい」こと、「語彙表や文型表にない言葉や文型が出てきたとき、前後関係でわかりやすければ使う。その際は繰り返し使うことが望ましい。あるいは挿絵で補う」ことなどが大切なポイントとして挙げられた。

2回のワークショップの直後、自分たちがリライトしたい作品を持ち寄り、検討する全体ミーティングをオンラインで実施した。初中級から中級レベルで作成することを念頭に、既に日本語学習者用の多読用リソースとして出版がされていない作品の中で、自分たちが挑戦したい作品を選んだ。その結果、新美南吉の『鉛だま』、芥川龍之介の『トロッコ』、宮沢賢治の『やま

なし』、野口雨情の『虹の橋』、古典文学作品（作者不詳）の『伊勢物語』から「芥川」と「筒井筒」が選ばれた。一つの作品をリライトする担当は基本的に2名で、異なる学年の学生同士が協働で取り組むグループも複数あった。NPO多言語多読のWEBサイトで公開されている「レベルの目安」の文型表、語彙表を参考に、各自リライト作業を約二か月間かけて行った。リライトの文章を作成する過程では、学科の近代文学や古典文学を専門とする教員からも助言をもらった。さらに、その文章をもとにどの部分にどのような挿絵を入れるかについてもグループにおいて検討し、グループメンバーあるいは学科の学生に挿絵を依頼して、オリジナルの原稿を完成させた。

冊子は、2022年1月に印刷所で印刷・製本され、納品された。その後、県内の日本語教育機関を中心に郵送して届け、海外で希望があった大学にもPDF版を提供した。また、大学のWEBサイトに「やさしい日本語で読む日本文学」のページ⁴を開設し、デジタルブック形式で閲覧とPDF版をダウンロードできる仕様にした。最後に、プロジェクトに参加した学生たちに対し、自由記述型のアンケート調査を実施した。



写真 完成した「やさしい日本語で読む日本文学」冊子

作品作成担当者は次の通りである（プロジェクトメンバーの他、挿絵協力者も含む）。

『飴だま』 簡約：鈴木茅優、絵：菊地優花

『伊勢物語』 簡約：安倍菜々香、絵：新開なつみ

『やまなし』 簡約：松田遥花、中野沙耶、絵：松田遥花

『トロッコ』 簡約：浅野まほ、中村清乃、絵：中村清乃

『虹の橋』 簡約：高橋なつ、熊谷未来、絵：村上璃奈

⁴ https://www.mgu.ac.jp/departments/jl/yasashii_nihongo/（2022年4月30日最終閲覧）

4. リライト作業の実際

ここでは、リライト前の原文とリライト後の文章を比較させながら、リライトする際にどのような工夫を行ったかについて、筆者のうち『飴だま』『伊勢物語』『やまなし』『虹の橋』のリライト担当者である5人がそれぞれのリライト作業を振り返って記述する。

4.1 『飴だま』のリライト例（鈴木茅優）

（原文）春のあたたかい日のこと、わたし舟にふたりの小さな子どもをつれた女の旅人がのりました。

（リライト文章）季節は春でした。とてもあたたかい日でした。二人の子供と、そのお母さんがいました。三人は舟に乗りました。

（コメント）原文冒頭の一文を、どのようにリライトするか悩んだ。日本語学習者の方が、冒頭で「面白くないな」「なんか難しそうかも…」と読み進めることを中断させてしまわないように、関心を引くことができるような、それでいて物語の世界に引き込むことができるようなリライト文を考えた。具体的に工夫した点は、冒頭の一文を短い意味のまとまりに分け、四つの文に書き換えたことである。原文では読点の一つしかないので、日本語学習者の方が読みづらいと考えた。しかし短文にすることで、視覚的な読みやすさを意識した文に書き換えることができた。また『やさしにちチェッカー⁵』のツールを活用し、上級語彙の使用をなるべく避ける工夫も行った。例えば、原文には「旅人」とあるが「旅人」には「ふたりの小さな子ども」がいるので、ここは「お母さん」と書き換えても差支えないのではないかと考えた。これにより、日本語学習者の方が「子どもと旅人の関係性が分からない」と混乱することなく、「子供」と「お母さん」が家族であると理解することができると考えた。他にも、原文には「わたし舟」とあるが、日本語学習者の方が「わたし舟」をイメージできないと考え、「わたし舟」を「舟」と書き換えることにした。しかし、これでも十分にリライトできたとは思えず、試行錯誤の末、「舟」はそのままに、文の下に「わたし舟」の挿絵を添えるこ

⁵ <http://www4414uj.sakura.ne.jp/Yasanichil/nsindan/> (2022年4月30日最終閲覧)

とにした。挿絵の効果により、日本語学習者の方が「わたし舟」のイメージをしやすくなったのではないかと考えている。

4.2 『伊勢物語』のリライト例（安倍菜々香）

（原文）男も女もはぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ、女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども聞かでなむありける。

（リライト文章）男の人も女の人も恥ずかしくて、子どもの頃のように会うことができませんでした。しかし、男の人は女の人と結婚したいと思っていて、女の人でもまた男の人と結婚したいと思っていました。だから、親が他の人と結婚させようとしても、誰とも結婚しませんでした。

（コメント）「筒井筒」の文で、男女がお互いを意識しているということを表している部分である。この文章の後には、ほぼ二つの和歌が詠まれているのみであるため、和歌の前の文章で設定を簡潔かつわかりやすく整理するよう工夫した。この二つの和歌は、男の歌に対する返歌が描かれている描写であるため、それぞれの和歌だけで考えずに、二つの和歌のニュアンスを合わせるように工夫した。また、原文が古文であり、現代の日本語と異なったニュアンスで表現されていることから、古文のニュアンスを無くさずに現代の日本語で表現するところが難しかった。単純にリライトするだけでは文のつながりが悪かったり、わかりにくい日本語になってしまったりと、わかりやすく表現することが難しかったが、「しかし」や「だから」などの接続詞を使い、必要に応じて文を区切るように工夫した。他にも、原文では「男も女もはぢかはしてありけれど」としか書かれておらず、恥ずかしいと表現するだけでは子どもの時と今の心情が異なっていることがわかりにくくなっているため、「子どもの頃のように会うことができませんでした」と文を追加することで心情に伴う二人の行動をわかりやすく表現した。さらに親が結婚相手を選ぶという昔の考え方を伝えながらも、それに反発する思春期の心情を表現するといった、リライトしながら古文の情緒ある表現を大事に考えた。

4.3 『やまなし』のリライト例（中野沙耶）

(原文) 波から来る光の網が、底の白い磐の上で美しくゆらゆらのびたりちぢんだりしました。

(リライト文章) お日さまが光っているのが波によって、いくつもの糸のようになって集まっていました。それは糸を組み合わせた、魚を取るときなどに使う網のようでした。それが大きな白い石の上で美しい体を大きくしたり、小さくしたりしていました。

(コメント) 原文は、波・光・網・底・磐・ゆらゆら・のびる・ちぢむというように難しい語彙が密集している部分であったため、膨大な時間がかかってしまった。特に頭を悩ませたのが「光の網」という言葉だ。「光(名詞)」は「光る(動詞)」にすることで語彙表の中のレベルでは低くすることができたが、「網」は1対1で対応するようなやさしい語彙を見つけることができなかった。また、この言葉は、この後にも何度か登場するうえ、作者オリジナルの表現だと考えていたため削るという選択肢をとることができなかった。このように言い換えや省略ができなかったため、「網」という言葉を用いつつ、その説明をするという方法をとることにした。説明では「糸を組み合わせた」という形についてと、「魚を獲るときに使う」という場面についてという二方向からのアプローチをすることでより網とは何かがわかるよう仕向けた。また、原文は一文であったところをリライトでは三文にした。補足説明を加えたことによって、書かなくてはいけない内容が増えたため、文章が長くなってしまったからだ。これらを1つの文にしてしまうと一文に含まれる量が多く、読みづらくなってしまう。そのため、欲張らずに要素を分けることにした。そしてそれを、できる限り自然な流れでつなげることを意識した。特に網の説明部分は辞書など言葉の説明を受けているのだと感じさせずに、物語の世界観に浸ったまま読み進められるよう努めた。加えて、それでもわかりにくいかもしれないという不安があったため、その場面の挿絵を入れるという補足も行った。

4.4 『虹の橋』のリライト例(高橋なつ・熊谷未来)

(原文) その時おきいちゃんは何にかに憑れたやうな調子で、しみじみ話しました。

(リライト文章) その時おきいちゃんはひとりで、しずかに言いました。

(コメント) 原文では、登場人物の複雑な感情・表情の表現が豊かなため、その分言葉が難しくなっている。そのためリライトも難しく、他の文章で採用していた方法では対応しきれず例外的な対応をした。まず、他の部分では省略してきた部分をあえて省略しなかった。比喩(～のような)は事実を強調するための例えであり事実自体ではないため、省略をしていた。しかし、後に続くおきいちゃんの話は「死後の世界、天国」について言及しており、冗談めかして言っているのか物思いにふけてしみじみ言っているのかで読み手が感じ取れるおきいちゃんの心情が大きく変わると考えた。その判断のためにも原文を省略しなかった。次に、対訳をつけるように別の単語で言い換えることをしなかった。私がこの文章で試すと「何にかに憑かれたような調子」は「自分の世界に入る」「豹変する」「自分を見失ったように」に言い換えられ、「しみじみ話す」は「物思いにふける」に言い換えられた。他の文章ではよく使う方法だったが、この方法では意味を重視し過ぎてしまい「やさしくする」ことに繋がらないと考えた。最後に、原文から思い浮かべた絵を見えたままに伝えるという方法を考えた。今までの工夫が通用しないこの文章のために考えた特殊な方法だったが、この方法によってリライトをすることができた。言い換えの方法では、等号で結ばれる必然性のある言葉でなければならないが、記号のように表現の恣意性を持つイメージを共有することで別の視点から自由に表現できたのではないかと考える。

5. リライト前とリライト後の使用語彙のレベル分析

ここでは、それぞれの作品がリライト前とどのように変化したかについて客観的に明らかにするために、リライト前の原文とリライト後の文章を語彙のレベル度分析をした結果を報告する。本プロジェクトでは先述した通り、リライトを行うためにレベルの目安としてNPO多言語多読の語彙表と文型表を用い、レベル3～4(初中級～中級)を基準としたリライトを行った。松下(2017:4)は、これまでの第二言語の読解力を構成する下位能力についての代表的な研究を概観し、レベルが初級に近づくほど語彙力が読解力に占める割合が高く、少なく見ても読解力の4割程度は語彙力で説明できると結論づけている。プロジェクト参加者に対する事後アンケートにおいても参加者の多くが「工夫した点と大変だった点」として「語彙」のリライト

について挙げていた。このような結果を踏まえ、ここでは語彙の難易度の面からリライトの結果について検討することとした。

5.1 分析方法

語彙の難易度を確認するツールとしてオンライン語彙・漢字頻度プロファイラー J-LEX (菅長・松下2013) を用いた。手順としては、まず、J-LEXのサイトを開き、リライト前あるいはリライト後の文章をウィンドーに貼りつけた。次に、ポップダウンリストからパスワードとして「留学生用 (語彙)」を選択し、判定ボタンを押して画面に表示される「ジャンル/レベル別語数 (延べ)」を確認した。この判定結果の確認は、筆者のうち高橋、熊谷、中野、安倍、鈴木が行い、それぞれ判定を担当した結果についての気づきを記述した。なお、ここでは判定結果として表示される語彙のレベルの中から、「初級」「中級前半」「中級後半」「上級前半」「上級後半」「超上級」「リストに該当なし」の語数を抜粋している。

5.2 分析結果

表1にリライト前の文章、表2にリライト後の文章の判定結果を示す。

表1 J-LEXによる語彙のレベル分析結果 (リライト前)

	飴だま	伊勢物語	トロッコ	やまなし	虹の橋
初級	406	205	2007	1142	2695
中級前半	32	50	161	124	176
中級後半	24	25	90	65	91
上級前半	5	7	45	19	45
上級後半	2	1	33	15	13
超上級	15	15	110	39	155
リストに該当なし	2	2	7	6	12
合計	486	305	2453	1410	3187

表2 J-LEXによる語彙のレベル分析結果（リライト後）

	飴だま	伊勢物語	トロッコ	やまなし	虹の橋
初級	283	672	971	1346	2165
中級前半	7	26	36	56	49
中級後半	15	15	12	37	51
上級前半	0	2	4	2	4
上級後半	0	0	4	1	2
超上級	15	21	32	23	37
リストに該当なし	1	0	18	5	50
合計	321	736	1077	1470	2358

『飴だま』の合計の語彙数は、リライト前の486語からリライト後の321語へと大幅に減り、リライト後は中級、上級レベルの語が大きく減少したことがわかった。一方で超上級に判定される語彙の数はリライト前とリライト後で変わらなかった。これは書き手の世界観や作品の雰囲気や損なうことがないようにと考慮した末、超上級語彙をリライト後にも残した結果ではないかと推察される。

『伊勢物語』リライト後の文章⁶は、古文を現代語訳し、かつ和歌の解釈も丁寧に行っているため、使用語彙数が増えた。その結果、上級と中級の語彙数が減り初級語彙の割合が最も高いものとなったが、超上級に判定される語彙の数は増える結果となった。

『トロッコ』の語彙数は、リライト前が合計2453語、リライト後が合計1077語と、半分以下に大きく語彙数が減るとともに中級から超上級に判定される語彙も大幅に減少した。わかりやすくするために簡潔な文章にしたり、難易度の高い語彙をなくしたりした結果だと思われる。

『やまなし』については、リライト後では語彙に対する説明を付け加えたこともあり、合計の語彙数がやや増えた。リライト後、中級前半から上級後半は格段に減少しているのに対し、超上級や該当なしはあまり大きな減少が見られなかった⁷。

⁶ J-LEXは現代語の語彙について判定するツールであるため、そもそもリライト前の古文のレベル判定に適したものではないと思われるが、今回は他の作品と同様のツールを用いて結果を分析した。

⁷ 宮沢賢治が使用する独特な世界観を表す語彙がJ-LEXでどのように処理されたかは明確にわからないため、この結果はあくまでも概要を捉えるための参考としたほうが良いだろう。

『虹の橋』ではリライト後、中級から超上級に判定される語彙が大幅に減少した。原文は一文が長い傾向にあり、リライトする際に難しい表現をなくしたり短くしたりしたが、中・上級にあたる語彙は説明を補っているため、全体の語彙総数は大きく変わらなかった。

リライト前とリライト後の文章の語彙のレベルを比較すると、リライト前に中級以上に判定される語彙がリライト後は大きく減少しており、NPO 多言語多読の語彙の目安レベル3（初中級）に合わせたレベル調整がほぼすべての作品においてかなりの程度達成できていることがわかった。全体の文章の長さや古文という文章の特性に鑑みて、『伊勢物語』『やまなし』『虹の橋』は中級レベルの読み物としたが、語彙のレベルから考えると9割前後の語彙が初級レベルとなっており、かなり「易しい」レベルにリライトできているのではないかと評価できる。

6. 参加学生の感想

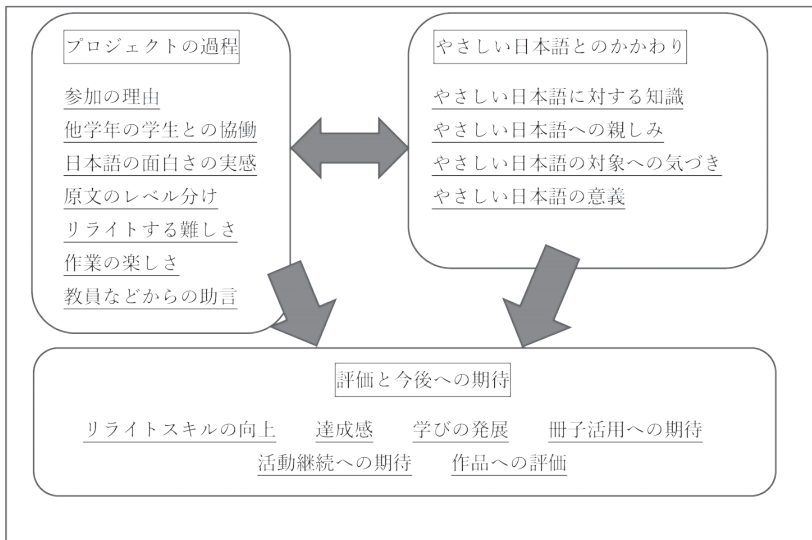
ここではプロジェクトへの参加学生9名に2021年2月に実施した、自由記述型の事後アンケートの結果を報告する。アンケートではプロジェクトに参加した感想を尋ねた。自由記述の文章の内容をKJ法（川喜田,1970）を援用して分析した結果、【プロジェクトの過程】、【やさしい日本語とのかかわり】、【評価と今後への期待】という3つの上位カテゴリーに分類された。【プロジェクトの過程】は「参加の理由」「他学年の学生との協働」「日本語の面白さの実感」「原文のレベル分け」「リライトする難しさ」「作業の楽しさ」「教員などからの助言」の7つの下位カテゴリー、【やさしい日本語とのかかわり】は「やさしい日本語に対する知識」「やさしい日本語への親しみ」「やさしい日本語の対象への気づき」「やさしい日本語の意義」という4つの下位カテゴリー、【評価と今後への期待】は「リライトスキルの向上」「達成感」「学びの発展」「冊子活用への期待」「活動継続への期待」「作品への評価」という6つの下位カテゴリーに分類された。その結果をまとめたものを表3および図1に示す。

表3 プロジェクトに参加した感想についての自由記述分析カテゴリー分類結果

上位カテゴリー	下位カテゴリー	自由記述の例
プロジェクトの過程	参加の理由	日本で楽しんでいる日本文学作品をわかりやすくして外国の方にも読んでもらうという取り組みに興味を持ち参加しました。
	他学年の学生との協働	学年に関係なく一つのプロジェクトを通して交流できて、とても刺激になりました。
	日本語の面白さの実感	日本語の奥深さ、面白さを改めて実感しました。
	原文のレベル分け	実際にリライトする過程では長い時間をかけて一作品内の語彙文法を全てレベル分けしました。
	リライトする難しさ	リライトする練習では言葉をやさしくするというにはばかり集中してしまい、うまくリライトすることができませんでした。
	作業の楽しさ	作品を決めての取り組みでは、一から作り上げていくことが楽しかったです。
	教員などからの助言	プロジェクトメンバーをはじめ、先生方や友人など様々な人々にアドバイスをいただき、とても勉強になりました。
やさしい日本語とのかかわり	やさしい日本語に対する知識	はじめて行ったリライトでは、言葉を直すだけでなく、文を区切り、補足でさらに文章を足すことや絵で難しいことばをわかりやすくすることなどの方法があることを知り、とても勉強になりました。
	やさしい日本語への親しみ	やさしい日本語を自分のことのように、より身近に考えるようになりました。
	やさしい日本語の対象への気づき	やさしい日本語は外国人（日本語学習者）の方だけが対象ではないことに気づきました。
	やさしい日本語の意義	大切なのは、相手に伝えたいことが伝わることです。

評価と今後への期待	リライトスキルの向上	相手に合わせて言葉を使い分ける能力が格段に上がったと実感しています。
	達成感	リライト作品が実際に形となったのはとても貴重な経験でした。
	学びの発展	やさしい日本語についての理解やリライトの方法だけではなく、一つの方法に縛られずに多様な視点で見ることによってうまく表せることを実感し、それは他の場所でも生かせることだと思いました。
	冊子活用への期待	この本が日本に来ている外国の方などの手に取られ、その人に何か伝わったならば嬉しく思います。
	活動継続への期待	これからもこの活動が続いたらいいなと思います。
	作品への評価	どの作品も素晴らしいものができあがったと思います。

図1 カテゴリー間の関連図



感想にはプロジェクトの過程について記述が多くあり、参加の理由からリライト過程に感じたさまざまな思いなどが書かれていた。特に「他学年の学生との協働」に関する記述は複数見られ、1年生から4年生までが協働で取り組んだ本プロジェクトによって、他学年の学生との交流により楽しく活動ができたことを肯定的に捉えるものが多かった。原文の語彙、文法をレベル分けしたうえで、難しいと判断したものを簡略化し、やさしくリライトする過程は難しいものであったが、教員も含めさまざまな人々の助言を得ながら協働して作り上げる過程は楽しく、リライトスキルの向上など、得るものが多かったというコメントが目立った。一方で、他学年の同じリライトグループの人以外とは十分に意見交換ができなかったことが残念だったと振り返るコメントもあったことから、今後の協働プロジェクトを考えるうえで課題としたい。

また、自由記述からは「やさしい日本語」へのリライト作業を通して「やさしい日本語」という日本語のバリエーションの一つへの理解が促されたことがうかがえた。その理解はやさしい日本語へリライトする際のコツ、方法というスキルのみならず、どのような人に向けて活用されるものかという対象への気づきや、やさしい日本語が持つ意義なども含まれており、実践を通して「やさしい日本語」が果たす役割や可能性について考える契機になったことがうかがえた。【プロジェクトの過程】には【やさしい日本語とのかかわり】が継続的にあり、それが冊子作成作業の難しさにもなり、楽しさにもなり、さまざまな気づきを促すものにもなったと言える。

さらに自由記述には実際に完成した冊子を手にした際には達成感を得、それぞれの作品を読み、素晴らしい作品ができたと評価する声とこうした冊子づくりが日本文学を多くの人々に楽しんでもらえる一つの機会になることを期待し、活動の継続を望む記述が複数見られた。【やさしい日本語とのかかわり】を継続的に行った【プロジェクトの過程】が、このような【評価と今後への期待】に結びついていったと考える。

7. プロジェクトの成果

以上、本稿では「やさしい日本語で読む日本文学」リライト・プロジェクトについて、主に成果物の語彙のレベル分析と参加学生的事後アンケートの結果をもとに報告した。それらの結果からは、参加学生たちが特に日本

文学作品の「語彙」「表現」の簡略化に葛藤を覚えながら協働で工夫を重ね、自分たちなりの最大限のリライト文章を作り出し、達成感と満足感を得ることができたこと、やさしい日本語への理解を深め、その意義と可能性について自分の考えを持つことができたこと、さらに、このようなプロジェクト活動を肯定的に評価し、さらなる活動継続へ期待を持つことができたことなどがプロジェクトの成果として見えてきた。やさしい日本語へのリライトには正解がなく、作業は学生たちの「選択」の連続である。それは難しい作業であるが、他者と協働しながら主体的にことばの「選択」を繰り返し、一つのものを作り上げていくプロジェクトだからこそ、得られた学びだったのではないかと考える。2022年4月現在、この冊子を提供した日本語教育機関の日本語教員からは「初見で読むには難しすぎず、短くてよかった。特に伊勢物語のときに短歌について説明したが、当時の時代背景などを面白いと学習者が話していた」（米国・D大学教員）、「レベル、長さともに準備なくても無理なく皆で読む活動ができた。活発な討論もできていた」（米国・U大学教員）、「オンラインで日本語の学習支援をしている外国人児童が歴史や文学が好きなので、日本文学冊子を使わせていただけて本当にありがたい」（日本・学習支援ボランティア）などの声を早速いただいている。このことは、このプロジェクトの成果物である「やさしい日本語で読む日本文学」冊子が国内外で年少者から大学生などの成人まで広い年齢層の日本語学習者にとって有用なリソースになり得る可能性を示している。本プロジェクトの実施によって、日本文学、日本語教育を専門とする大学生たちがその制作に主体的に携わり、リソースの提供者となり、社会貢献ができるという一つのモデルを示すことができたのではないかと考える。今後も「日本文学」作品のリライトを含め、日本語学習者にとってわかりやすく、親しみやすい日本語学習リソースをいかに提供できるかについて考え続けていきたい。

謝辞 本研究は、宮城学院女子大学2021年度教育推進研究費の助成を受けて実施されました。挿絵の提供を含む本プロジェクトに参加した全てのメンバーに感謝します。

【参考文献】

- 庵功雄（2021）「日本語表現にとって「やさしい日本語」が持つ意味」『一橋 日本語教育研究』9、ココ出版、pp.121-134
- 川喜田二郎（1970）『続・発想法—KJ法の展開と応用』中公新書
- 菅長陽一・松下達彦（2013）「日本語テキスト語彙分析器 J-LEX」
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/index.html>（2022年4月30日最終閲覧）
- 中島葉子・大塚容子（2018）「教育養成学部における日本語指導法での授業で育成される資質能力—リライト文の分析から—」『岐阜聖徳学園大学紀要 教育学部編』pp.37-53
- 松下達彦（2017）「日本語読解テキストのリライトの重要性とアプローチ—語彙の要素を中心に—」『日本言語文化研究会論集』13号、pp.1-18
- 光元聰江・岡本淑明（編著）（2006）『国語教科書対応—外国人児童・生徒を教えるためのリライト教材』ふくろう出版

【やさしい日本語WEBニュースURL】

- NHK「NEWS WEB EASY」<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>
（2022年4月30日最終閲覧）
- 河北新報「やさしいにほんごニュース」<https://kahoku.news/easyjapanese/>
（2022年4月30日最終閲覧）

【多読リソースWEBサイトURL】

- 「にほんごたどく」<https://tadoku.org/japanese/>（2022年4月30日最終閲覧）
- 「たどくのひろば」<http://tadoku.info>（2022年4月30日最終閲覧）
- 「日本語多読道場」<https://yomujp.com/>（2022年4月30日最終閲覧）